

## 平成29年度学校評価結果について(報告)

### 1 学校評価について、学校評議員(学校関係者評価者)から指摘のあった主な事項と意見

事項	生徒指導
意見	小中学校時に学校に適応できずコミュニケーションが苦手な生徒が多いようだが、社会に出たときはどうしても必要な能力なので、愛好会や自治会活動をもっと盛んにするなど、もう少し創意工夫をするべきではないか。
事項	進路指導
意見	とても魅力ある高校で、生徒の資質・能力に応じた支援が出来ている。その一方で、「不登校経験者が進学する学校」というイメージが強くなっている。大学進学等も含め、個々の進路に応じた指導が出来る単位制の定時制高校である点をもっとPRしても良い。
事項	地域交流
意見	さくら文化講演会や茶会など、地域交流ギャラリーを生かした好企画が行われているのに余り知られていない。PRを工夫し、昨秋の10周年記念イベント時のように大勢の人が足を運べば、高校に対する印象や思いが変わってくるし、豊富なネットワークを持つ町なので協力者も増えると考え。

### 上記1を踏まえて、学校運営の改善に取り組んだ(取り組む予定の)事例及び成果(期待される成果)

事例	<p>○生徒指導:部活動もなく、愛好会や自治会活動に主体的に取り組む生徒は少ないため、教員側の働きかけが欠かせない。学校行事やボランティア活動等で事あるごとに有志を募り、少しずつ活動を活発化させている。</p> <p>○進路指導:不登校生が通う高校というイメージが定着しつつあり、学校不適應生徒への救済という意味では良く機能している。今後は、多様な選択科目の配置や少人数授業などにより、大学進学を含むさまざまな進路希望への対応が可能である、という単位制定時制高校の特長を、学校説明会やオープンキャンパスを通じて保護者や中学校側にアピールしていく。</p> <p>○地域交流:地域交流ギャラリーの企画や季節ごとの学校行事についての学校新聞を作成し地域に広く配布する。年度初めの地域行政区長会に参加し学校のPRを行う。</p>
成果	<p>○生徒指導:生徒が自立した活動を行うのは容易ではないが、取り組んだ生徒は徐々に自信を付けてきており、自己肯定のきっかけを掴んで徐々に主体的な学校生活を送れるようになってきている。</p> <p>○進路指導:単位制定時制高校の良さを理解し、学校不適應だったが大学進学を目指したい、福祉や商業を学んでその道のプロを目指したいといった動機で入学する生徒が増える。</p> <p>○地域交流:HPやSNS等に触れる機会の少ない主に高齢者の方々に直接情報を届けることで来校者が増え、また科目履修生制度(聴講生)の活性化にもつながる。</p>